

がんになっても在宅で仕事を続けられた

病気がきっかけで始めたテレワーク

人的資源が限られた中小企業にとっては、社員を大事にできる良い選択肢



■ 取り組んだ背景やきっかけは？

2年前に、ある社員が膵臓がんと診断され、余命1年～2年半の告知を受けるということがありました。闘病生活のために本人も退職を考えていたようですが、非常に優秀な営業担当者であったこと、会社にも長く勤めてくれていたこともあり、病気が原因

で縁が切れてしまうのは非常に勿体ないという気持ちで、何とかこのまま会社にいてもらうことはできないかと考えました。

幸いなことに、抗がん剤の薬が体に合ったようで、その社員は驚異的な回復を見せました。本人の働きたいという意思もあり、会社に前例はありませんでしたが、2018年2月から「テレワ

ーク(在宅勤務)」という形で働き始めてもらいました。通院の必要や、抗がん剤治療の副作用はあるものの、家で座って仕事をする分には問題ないとのことだったので、双方にとってテレワークがベストな働き方だと考えました。

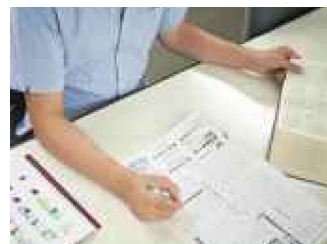
■ どのような取り組みを行ったか？

彼は営業担当でしたので、見積作成、ちょっとした原稿制作や校正まで一通りの業務をこなせるため、業務を依頼したい場面は多々ありました。しかし、個々の担当者から別々に依頼を行うと混乱するため、「営業支援チーム」という部署に所属してもらい、一切の仕事はそのチームの課長を通すという流れを作りました。最初は、名

簿作りやお礼状作りなどできる仕事から始めてもらいました。

家でデスクワークを行うほか、メインの営業担当が外出している間は、彼が顧客へ直接連絡し校正のやり取りをすることもあり、効率的に連携しながら、業務を行っています。当社では定年の60歳になると第一線から外れ部署のサポートに就くルールがあり、ちょうど社内には校正担当の社員が退職するタイミングと重なり、引き

続き彼が校正業務を行ってくれて非常に助かりました。



■ どのような成果があったか？

テレワークで家で仕事をするには、在宅勤務者の家族の理解も必要です。家族の了承を得られさえすれば、土日、朝夜関係なく自由に仕事ができるのがいいと本人は話していました。さらに、会社にいると電話対応などの雑務があることで、およそ1.5倍の時間がかかる感覚だと言いますが、

自宅ならば作業に集中できることもメリットでした。

我々のような、限られた人的資源で働かざるを得ない中小企業にとっては、テレワークは社員を大事にできる良い選択肢だと思います。それには、仕事を手配する側が、依頼する仕事の内容を理解して、うまく振り分ける仕組みづくりが重要だと感じました。



■ 今後は？

今後は、会社全体の取り組みとしてテレワークを推進していきたいと考えています。テレワークについては、

まだ手続きが未整備の状況です。今後、就業規則を整備し、病气・育児・介護などが理由で働きにくくなった社員が利用できるように進めていきたいと思っています。

さらにその先は、有休消化率の向上・深夜残業をなくす取り組みにもチャレンジしたいですね。そのためには、生産性を向上させることが当面の課題だと感じています。

事例のポイント

【背景】

- 優秀な社員ががんと診断された
- 治療をしながらでも仕事が続けられるように、テレワーク(在宅勤務)をスタートさせた

【取組内容】

- テレワーカーの担当業務は、所属部署の課長に整理させた
- デスクワーク以外にも、顧客への連絡なども任せた

【成果】

- 職種柄、家庭でもできる仕事が多く、会社と社員の双方にとってメリットが大きかった
- これを機に、会社としてテレワークを推進していきたい

社員の声

営業支援チーム 本田さん

2週間に1度は通院する必要がありますし、抗がん剤の副作用もあり車の運転は難しいことから、在宅勤務で仕事が続けられるのは非常にありがたかったです。とにかく、時間を気にせずに家で自由に仕事をできるのがいいですね。会社としては、まだ十分に整備されていないテレワーク制度ですが、もっとうまく在宅勤務を活用してほしいと思います。現時点では体調も良くなり、家族旅行へも行くことができました。お酒も少量は許可が出て、会社の忘年会にも参加しました。ストレスなく、適度に仕事をできていることが、体に良い影響を与えているのかもしれない。

働き方改革アドバイザーから

川村 浩司

今回、熟練の営業担当が病気になったことから、テレワーク(在宅勤務)に取り組み始めたとのことですが、私からは残業時間の減少、労働力の確保のための営業・企画部門の生産性向上についてアドバイスさせていただいておりました。具体的には、現在の本社と東京における2拠点での活動効率を上げるため、Webカメラ等による情報共有とコミュニケーション頻度のアップを図る提案を行っていました。

今回のテレワークの実施に際して、私からのアドバイス内容を活用していただけたら幸いです。今回は病気治療と仕事の両立のためのテレワークでしたが、今後は育児、介護等を行う社員にも展開するなどして、ワークライフバランス、柔軟な働き方への取り組みを進めて欲しいと思います。